三陸復興国立公園　着地型企画	NO.	MS06	級	ウォーク中

コース名

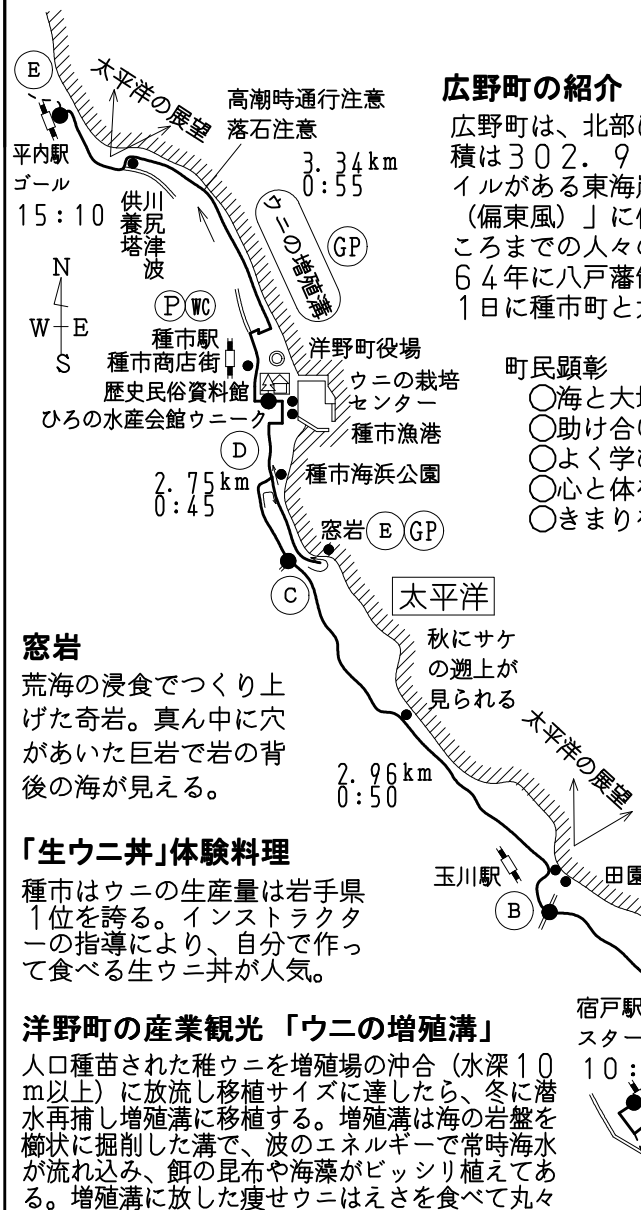
みちのく潮風トレイル分割踏破　約700km
第2回寺下から小船戸海岸・種市・侍浜41km3コース
06宿戸駅から種市海浜公園・ウニ増殖溝・平内駅

歩行距離12．34km	歩行時間3時間25分	休憩探勝1時間00分
予備時間10分	全行程4時間35分	最大標高差30m
往路アクセス	久慈の宿－徒歩5分－久慈駅945頃－JR八戸線－1030頃宿戸駅	

GP ジオパーク　地球の息吹およびその自然遺産や生態系と人々の共生について学ぶ場所（大地の公園）

お楽しみ累積歩行距離		
NO	歩行km	累積km
01	9．35	9．35
02	19．74	29．09
03	12．76	41．85
04	9．73	51．58
05	18．72	70．30
06	12．34	82．64
福島県相馬市松川浦		約700

東京駅基点 東海道新幹線営業キロ
新横浜 28．8
小田原 83．9
山陽岡山 732．9



広野町の紹介

広野町は、北部は青森県階上町と南は久慈市、東は太平洋に面している。面積は302．92平方キロメートル。山林面積が7割占めている。潮風トレイルがある東海岸部は、海岸気象の影響を受け、春から夏にかけて「ヤマセ（偏東風）」に伴う濃霧が発生する。縄文時代の遺跡が多く、紀元前三世紀ころまでの人々の暮らしが伺えます。中世には糠部郡に属し、江戸時代1664年に八戸藩領となりました。昭和30年種市町となり、平成18年1月1日に種市町と大野村が合併して洋野町となりました。

町民顕彰
- ○海と大地を守り、自然とともに生きるまちをつくりましょう。
- ○助け合い、元気で働く豊かなまちをつくりましょう。
- ○よく学び、文化のかおり高いまちをつくりましょう。
- ○心と体をきたえ、健康なまちをつくりましょう。
- ○きまりを守り、安全なまちをつくりましょう。

洋野町は「南部もぐり」発祥の地

1898年（明治31年）に種市沖で座礁した貨物船の解体引き上げ工事のため訪れた現在千葉県南部の潜水夫がヘルメット式の潜水技術を伝授したのが始まり。船上より命綱のホースからヘルメットに空気を送り長時間潜水が可能。湾口工事、海中調査や県内の水揚量の約9割を占める天然ホヤ漁にもいかされている。種市高校の海洋開発科で、南部もぐりを学んだ卒業生は世界の海で活躍している。歴史民俗資料館に「南部もぐり」の資料を展示している。

窓岩

荒海の浸食でつくり上げた奇岩。真ん中に穴があいた巨岩で岩の背後の海が見える。

「生ウニ丼」体験料理

種市はウニの生産量は岩手県1位を誇る。インストラクターの指導により、自分で作って食べる生ウニ丼が人気。

川尻津波供養塔

甚大な被害を受けた三陸大津波（昭和8年）の供養塔はこれまで津波により甚大な被害を受けた広野町には7基の津波供養塔が建立された。

洋野町の産業観光 「ウニの増殖溝」

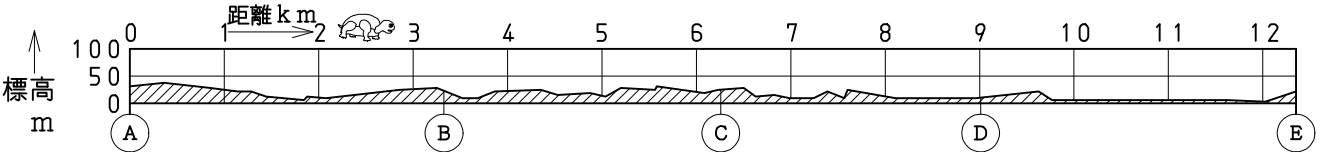
人口種苗された稚ウニを増殖場の沖合（水深10m以上）に放流し移植サイズに達したら、冬に潜水再捕し増殖溝に移植する。増殖溝は海の岩盤を櫛状に掘削した溝で、波のエネルギーで常時海水が流れ込み、餌の昆布や海藻がビッシリ植えてある。増殖溝に放した痩せウニはえさを食べて丸々太る。半年後の夏に漁獲。この洋野町種市産のウニは濃厚な甘みで大好評です。　旬は6～7月。

種市漁港と海浜公園

漁港とは漁業活動の拠点で、沿岸部基幹産業の水産業を支えるために重要な役割をはたしている。広野町では種市漁港区域の防潮堤の前面の海浜に、国土保全と調和のとれた施設の種市海浜公園を整備しました。施設の正面が江戸ヶ浜海水浴場で、太平洋パノラマ展望台があるシーサイドハウス、キャンプ場およびフイッシャリーナは県民の憩いの場となっています。

ひろの水産会館「ウニーク」

同会館は東日本大震災で全壊した旧種市ふるさと物産館跡地に建設されました。2016（H28）2月27日来館者が平成26年3月23日の開館以来1年11カ月で10万人に到達しました。



	A→B	B→C	C→D	D→E
沿面距離km	3．29	2．96	2．75	3．34
推定時間h	0：55	0：50	0：45	0：55
標高差m	－11	7	－16	13

合計：沿面距離約12．34km　推定時間約3：25　累積標高（+）約162m　累積標高（－）約169m　最大標高差約30m

インターネット情報　http://www.tohoku-trail.go.jp/　みちのく潮風トレイル公式サイト　を閲覧下さい

作成：上部